

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ： <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

市内3か所に、**高津市民館 鷺沼・登戸行政サービスコーナー** 便利な**図書返却ポスト**が設置されました。

川崎市立図書館では、利用者の皆様のご要望にお応えし、平成18年12月1日から、市内3か所の駅に近い場所に、便利な図書返却ポストを設置いたしました。川崎市立図書館の資料（CDを除く）を、ご返却いただけます。通勤・通学やお買い物の途中に、ぜひ便利な図書返却ポストをご利用ください。

JR登戸駅の改札前に新設された行政サービスコーナーにも
図書返却ポストが設置されました。



設置場所	利用可能日時	行き方
高津市民館 TEL：044-814-7603	高津市民館の開館日・開館時間内 （休館日：第3月曜日、国民の祝日の場合はその翌日および年末年始） 開館時間：午前8時30分～午後9時 ※館内点検のため午後5時までのご利用になる日があります。	JR南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝ノ口駅徒歩3分 （ノクティ2ビル「マルイファミリー溝ノ口」11Fエレベーター正面）
鷺沼行政サービスコーナー TEL：044-852-8471	行政サービスコーナーの利用時間内 （休館日：祝日、祝日と日曜が重なった場合の翌月曜日および年末年始） 月曜～金曜：午前7時30分～午後7時 土曜：午前9時～午後5時 日曜：午前9時～午後1時	東急田園都市線鷺沼駅西側徒歩3分 （東急ドエル・アルス鷺沼ネクステージ1階）
登戸行政サービスコーナー TEL：044-933-3000		JR登戸駅改札正面 （味の食彩館のぼりと2階）

※図書返却ポストに返却された資料は、返却手続きが完了するまでに数日かかる場合があります。

「読書のまち・かわさき」
図書館講演会のお知らせ

竹西寛子先生講演会「毎日の言葉」

今年度の「読書のまち・かわさき」図書館講演会は、小説をはじめ、王朝文学の世界を紹介する作品や、端正な文章で綴られるエッセイなどで親しまれている竹西寛子先生をお迎えいたします。ご自身の創作活動や、日常の言葉に関するお話など、竹西先生の語られる言葉の世界をお楽しみください。

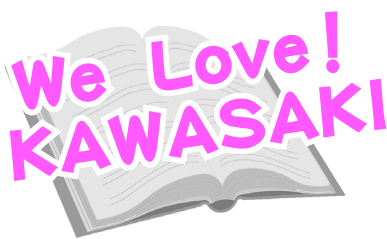
日 時：平成19年3月3日（土） 午後2時～3時30分

会 場：中原市民館 大ホール（定員450名）

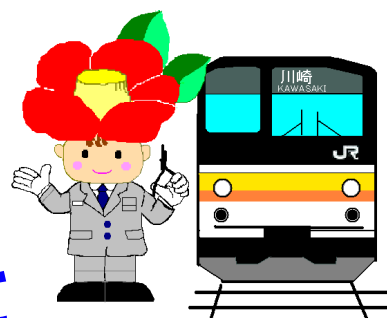
申込み：2月16日（金）より各市立図書館および図書館分館カウンターにて整理券を配布いたします。

問合せ：中原図書館（電話 722-4932）

※2月16日（金）よりこちらの電話番号で、お電話での申込みも受け付けております。



このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介していきます。第4回は、川崎市民になくはならない通勤・通学・レジャーの足である鉄道に関する本を集めました。

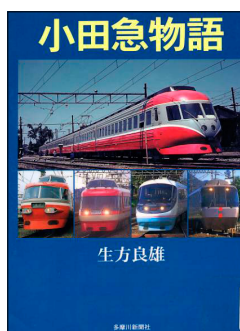


第4回 みんなの夢を乗せて



『南武線いまむかし』
(原田勝正/著)

川崎市域を縦断し、川崎と多摩地域とを結ぶ南武線。多摩川の砂利や奥多摩の石灰石を輸送した歴史や沿線の地域について、また、鉄道を構成する線路・車両・運用のシステムなど、様々な角度から南武線を紹介。



『小田急物語』
(生方良雄/著)

特急ロマンスカー SE車誕生から高架化計画までの、小田急電鉄の歴史。疲弊した車両の復興や箱根登山鉄道、国鉄御殿場線への乗り入れなど、小田急に勤めた著者が数々の思い出を綴る。



『東急電車物語』
(宮田道一/著)

田園都市構想のもと、高級住宅地と都心を結ぶ鉄道として大正期に発足した東急電鉄。現在では車両1000両以上の規模に成長した東急電鉄の歴史と、その間に生み出した数々の車両を紹介。理想的な通勤通学用電車を作り続けた軌跡を追う。



『京浜急行電車と駅物語』
(吉川文夫・佐藤良介/著)

日本で3番目、東日本最初に開業した古い歴史のある電気鉄道「大師電気鉄道」がルーツの京浜急行電鉄。その京浜急行電鉄の歩み、歴史を飾った車両、その電車と駅について、写真や図を交えながら振り返る。かつては川崎市電も乗り入れていた！

(今回紹介した資料は、いずれも多摩川新聞社の出版です。)

展示 川崎ゆかりの文人たち・50人

佐藤惣之助



北原白秋



中村正義



川崎弘子



岡本かの子



勝海舟



平成19年3月13日(火)～18日(日)
アートガーデンかわさき 第3展示室 にて

午前10時～午後7時(※最終日は午後4時まで) 入場無料

タワーリパーク3階(JR川崎駅東口徒歩2分・京急川崎駅徒歩2分)

主催：川崎区誌研究会・川崎市立川崎図書館・川崎市文化財団

問合せ：川崎市文化財団 TEL.044-222-8821

◆川崎ゆかりの作家・詩人・歌人・俳人・美術家・芸能人など、50人を紹介。

◆顔写真・肖像画・絵画などを展示し、関連図書なども陳列します。



このコーナーでは、川崎で広く読書活動や、研究などにたずさわる方々の活躍を紹介しています。

おはなしの世界へようこそ!

絵本の楽しさを伝える夢のあるおはなし会

－ 高津図書館よみきかせグループ「めんどり」 －

クリスマスを間近にひかえた12月20日、高津図書館ではボランティアグループ「めんどり」によるおはなし会が開かれていました。おはなし会のお部屋は子どもたちとお母さんで満員でしたが、おはなしが始まると子どもたちは集中して聞き入り、ボランティアの方の声がよく響いていました。最初のおはなしは絵本の『なにをたべてきたの?』（佼成出版社）。おなかのすいた「しろぶたくん」がリンゴを食べるとおなかに赤い色が見えてきます。次にレモンを食べるとおなかには黄色い色が…、次々に色が加わっていく繰り返しが楽しい絵本です。おはなし会用の大型絵本を使っているのので後に座った子どもたちにもやさしい色合いの絵が見えています。次のパネルシアター「おおきな古時計」ではブラックライトという特殊なライトが登場しました。蛍光色の絵が発光して見える仕掛けで、お部屋の明かりを落として演じられます。「おおきな古時計」の歌とともに、電飾のように絵が浮かび上がり幻想的なひとときになりました。そしておはなし会の最後には楽しい人形劇「赤ずきんちゃん」が待っていました。かわいらしい人形たちの繰り広げる劇に、子どもたちの目はくぎづけになっています。40分の会でしたが、まだ小さな子どもたちも夢中でおはなしを聞いていました。



高津図書館よみきかせグループ「めんどり」のメンバーの皆さん

つづく小学生向けの会では、静かな雰囲気絵本の『こねこのクリスマス』（教育画劇）や素ばなしの「かさこじぞう」が加わり、また心温まる内容でした。

高津図書館よみきかせグループ「めんどり」のおはなし会がスタートしたのは、昭和58年。すでに20年以上活動を続けてきているボランティアのグループです。図書館の定期的なおはなし会に加えて、夏休みやクリスマスなどの大きなおはなし会では人形劇（人形はメンバーの方々の手作り!）・パネルシアター・素ばなしなどバラエティーにとんだ内容で読み聞かせが行われています。20年以上活動を継続してこられた原動力は、メンバーの方々の「子どもたちと絵本を愛する気持ち」とお聞きしました。その間に「めんどり」の読み聞かせがどれくらい多くの子どもたちを絵本とおはなしの世界に招待してきたのでしょうか?

クリスマスの前にとっておきの時間をプレゼントしてくれたおはなし会でした。



さる平成18年11月3日、よみきかせグループ「めんどり」を含む市内6団体と個人1名が、「読書のまち・かわさき読書活動優秀団体（者）」として、これまでの活動を表彰されました。

優秀団体（者）の表彰を受けられた方々

- 絵本のよみきかせボランティアグループ「おおきな木」
- 幸えほんの会
- ブックママ（川崎市立上丸子小学校図書ボランティア）
- 高津図書館よみきかせグループめんどり
- 伊藤 千代子 さん
- 川崎市立南菅小学校図書ボランティア
- 私設ゆりがおか児童図書館

おめでとうございます



かわさき歴史めぐり (11)

徳川氏の関東入国と川崎市域－11－ 法政大学名誉教授 村上 直

戦国時代において集落の存在を示す地名によって溝之口の位置が注目されます。『新編武蔵風土記稿』には「多摩川の水分れ入、川崎の方へ流る。当所は其溝^{みぞ}の入口に当るを以、溝の口の名ありと云」と記してあります。この溝（みぞ）の意義は諸説がありますが、平瀬川のつくる小河谷を指しており、作延まで丘陵の間の谷間を流れてきた平瀬川が、この地に至って広大な多摩川の沖積低地に出たので、その溝の口ということで地名になったという説が有力です。中世の文書には「溝の口郷」、戦国時代には「稲毛溝之口」と記してありますが、江戸時代には「溝ノ口」（『武蔵田園簿』）、「溝の口村」（『新編武蔵風土記稿』）そして、明治時代になって「溝ノ口」と表記されるようになりました。しかし、公式文書には「溝口」を使用しています。このように溝口村には地形による古い歴史的地名を読みとることができます。

このように多摩川に面して渡船場があった二子村と隣接する溝口村は、古い歴史の道に関係していたことは確かでしょう。そのため「二子・溝口」村と呼ぶ場合が多くありました。

天正18年8月、徳川氏が関東入国した当時の交通路の実態を直接、伝える文書はありません。しかし、戦国時代の交通路が利用されていたと見ることができます。

江戸時代の矢倉沢^{やぐらざわ}往還は、江戸城の赤坂御門を起

点として、渋谷村（東京都渋谷区）・三軒茶屋（同・世田谷区）を通り、世田谷新町を経て用賀村・瀬田村（世田谷区）から二子渡しで多摩川を渡河し、溝口から長津田（横浜市緑区）、相模国厚木・伊勢原・矢倉沢（神奈川県南足柄市）を経て、駿河国沼津（静岡県沼津市）で東海道に合流する道です。この往還名である矢倉沢には関所が設けられていました。江戸時代初期の関所は、大名領国において武器類の輸送や通行人・通信の検問が重要な意味をもっていました。また、関東において江戸を包囲している関所については、関東要害体制の要地として警備はきわめて厳重でした。それは幕府の支配に直結する江戸での反乱を未然に防ぐことであり、大小名からとっている人質が江戸から逃亡することを阻止するためでした。

関東と東海地域との境界を示す箱根山には、箱根関所を始め根府川^{ねぶかわ}・矢倉沢・仙石原・川村^{やが}・谷ヶと6か所の関所が配置されていました。矢倉沢関所は徳川氏の関東入国から慶長17年（1612）に至る22年の間に成立したと見られていますが、これには6か所の関所が箱根山全体を防衛地帯とする計算があったからといわれています。（『南足柄市史』6、通史編Ⅰ）。

この矢倉沢往還は、古代・中世に存在した古道を接合しながら、江戸時代になって歴史の道の機能を整えていったというべきです。

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橘 分館(788-1531)
幸 図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	菅覧所(946-3271)



川崎で世界一が決まる。

第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会
2007年7月7日（土）～7月15日（日）川崎球場・等々力陸上競技場